



市民登場

No.689

ヨシデザイナー
塩田 真由美さん

十二単（ひとえ）をイメージしたという照明スタンド。「ヨシ紙」の筒を二重三重に重ね、点灯させると桜の模様が淡く浮かび上がる。水辺に自生するヨシが材料のヨシ紙は和紙よりきめが細かく、黄土色で温かい色合いの明かりが特徴だ。「光の当たり方で表情が変わる。見ていて飽きませんよ」。

幼い頃から絵を描くのが好きで、高校卒業後は銀行に就職したが「芸術に関わる仕事がしたい」と22歳で手描き友禅の職人に弟子入り。その後も、子育てをしながらテキスタイルデザインやギャラリー経営などさまざまな仕事

◆しおたまゆみ 「紙の地産地消」をテーマに淀川の鶺鴒殿ヨシ原（高槻市）のヨシや穂谷の竹などを材料にした照明や雑貨を企画・デザインする。昨年、紙製品ブランド「紙温（しおん）」を立ち上げた。津田山手町在住。57歳。

に就く。「何とかなる、という根拠のない自信がありました」。38歳のとき、尊敬するデザイナーの薦めで和紙製作会社へ。優しい質感に「自分で何か作りたい」という思いが募っていった。

ヨシ紙の存在を知ったのは今から10年前。交野市で始めた和紙小物を扱うカフェギャラリーで、高槻の鶺鴒殿（うどの）ヨシ原の保全活動に取り組み研究家から聞いた。ヨシには窒素やリンを吸収する水質浄化作用がある。「加工して商品化すればヨシの存在や自然の大切さをアピールできるのでは」と思い立った。冬になると立ち枯れる鶺鴒殿ヨシ原のヨシを刈り取り、越前の製紙会社がすくヨシ紙で、照明や文具、雑貨などさまざまな製品をデザインした。2年前には企画・販売も手掛けるアトリエを市内にオープン。「事業として行うことでヨシの消費・生産というサイクルを作ることができれば」。

現在はヨシを使ったせつけんや日本酒ラベルの製作など事業の幅をさらに広げている。穂谷の竹を活用してすいた竹紙を使った製品も手掛ける。「繊維が粗いので加工が難しい」と悪戦苦闘しているが、地元の素材を使ったものづくりがやりがいを感じている。「娘も手伝ってくれるようになりました。親子で地元で恩返ししていきたい」。

クイズ de 広報

答えは広報の中！

抽選で3人に図書カードが当たる！

問題

今夏公開！ 川崎麻世さんが出演する
枚方が舞台の映画は？

- ① くらわんか！ ② 麻世プレート ③ スターライト・エクスプレス

▶応募方法 市ホームページの応募フォームまたははがき、電子メール、ファクスに住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号、クイズの答え、広報ひらかたの感想を書いて市広報課（〒573-8666）へ。2月15日必着。1人1通。当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。 ☎広報課 ☎841・1258、 ☎846・5341、 ✉kouhou@city.hirakata.osaka.jp

先月の答え
②10倍